

都筑郡一座 小

都筑は豆々岐と訓べし、和名鈔、郡名都筑、假字上民部、の如し式廿二、上民部、拾芥抄、國郡都筑、○万葉集廿卷、天平勝寶七歲乙未二月、相替造筑紫諸國防人、云々、武藏國防人都筑郡上丁服部於田、

杉山神社

杉山は須岐夜萬と訓べし○祭神五十猛命、地名記名 ○在所分明ならず、地名記云、吉田村字杉山、式社考村、孰れか、云、小机郷小机村、參考云、孝少時

神位 官社

續日本後紀、承和五年二月庚戌、武藏國都筑郡粉山神社預之官幣、以靈驗也、同十五年五月庚辰、奉授武藏國無位杉山名神從五位下、

多磨郡八座 並小

多磨は太磨と訓べし、和名鈔、郡名多磨、太磨○今按るに、磨は磨の誤か、然れども多磨といふ多麻といふ多磨、ふを思へば、和名鈔の假字九磨れるにてそありん、式廿二、上民部、拾芥抄、國郡多磨、○惣國風土記七十七殘缺云、武佐志、武多磨郡、東東限、草草窪岡、西西限、金川、南南限、辛辛田浦、北北限、向向岡、

阿伎留神社

阿伎留は假字也○祭神味耜高彥根命、地名記云、又云、天見屋命、○上秋留郷五日市村に在す、地名今春日大明神と稱す、例祭 月 日、

万葉集十四多
武藏國歌多
麻呂伯爾佐
真須氏佐
利佐々

建武五年二月十日、源尊氏の奉れる由錄付たる神鏡の銘文に、武藏國小鹽村關東鎮護從四位勳六□呼切大明神とあり、又圓鏡の如き古銅物あり、面に呼切明神、背に天平十一年二月四日と錄付たる什物の由也、

神位

三代實錄、元慶八年七月十五日癸酉、授武藏國正五位下勳六等呼切神從四位下、

小野神社

小野は乎乃と訓べし、和名鈔、郡名小野、○祭神詳ならず○府中本宿村字小野に在す、地名○惣國風土記七十七殘缺云、武藏國多磨郡小野神社、圭田五十六東三字田、所祭瀬織津比咩也、垂仁天皇甲午、始行祭禮、有三神戶巫戶等、○拾芥抄年中行事條云、八月廿日、奉武藏小野御馬、

武藏野地名考に、府中總社六所明神也、緣起云、本殿大己貴命、相殿伊弉諾尊、素戔鳴尊、瓊々杵尊、大宮賣命、布留大神也、此邊小野里と云、此小野神社なるべし、伴信友云、總國風土記、府中、或小野、或小川と云り、式社考には府中一宮村、今一宮大明神と稱す、祭神武藏國造兄武日命祖神と云り、地名記に、祭神下春命と云り、○伴信友云、一遍上人繪詞に、乾元元年秋の比、武州淺堤といふ所にあはしけるに、又小野社神主實信于時出家進狀云々、法名願阿、

神位